



営農NEWS



秋冬ネギの軟腐病や葉枯病、ネギハモグリバエなどの病害虫防除を徹底しましょう

県内のネギ栽培には多くの作型があり、主要産地では周年出荷のために、常にどこかでネギが栽培されている状況となっており、連作障害や難防除病害虫の発生が徐々に拡大し、産地を維持する大きな課題となっています。

本年は7月に曇りや雨の日が続いて降水量が多く、梅雨明け後は高温少雨の天気が連日続いた影響か、夏ネギ栽培では軟腐病の発生が多くなり、問題となりました。

病害虫発生予報9月号(県病害虫防除所)によると、**秋冬ネギでも8月下旬現在、軟腐病の発病株率(本年4.0%、**
平年0%)、発生地点率(本年33%、平年0%)とも平年より高い状況で、今後の発病進展に注意が必要です
ので、薬剤の予防散布に努めるとともに、発病初期には薬剤防除を徹底しましょう。なお、ネギの薬剤散布では、**必ず**
湿展性の高い展着剤を加用して、株元まで薬液が十分に付着するよう丁寧に散布します。

表1 ネギ 軟腐病の主な防除薬剤 (令和2年8月31日現在)

薬剤名	希釈倍率	使用時期 / 使用回数	分類
スターナ水和剤	2,000倍	収穫7日前まで / 3回以内	31
ナレート水和剤	1,000倍	収穫21日前まで / 3回以内	31とM1
カセット水和剤	1,000倍	収穫14日前まで / 2回以内	24と31
Zボルドー	500倍	- / -	M1

次に、葉に発生する黒斑病や葉枯病は類似した紡錘形の病斑を形成しますが、近年は黒斑病より葉枯病の発生が多い状況とのことです。これらの病斑は長くひし形状に変色し、大きく枯れこみます。また、葉枯病の被害として、中心葉などに退緑小斑点や黄緑色の不規則な斑紋(黄色斑紋症状)を生じることが判明し、春先や秋のやや低温期に降雨が多いと発生しやすい傾向があります。

表2 ネギ 黒斑病、葉枯病の主な防除薬剤 (令和2年8月31日現在)

黒斑病	葉枯病	薬剤名	希釈倍率	使用時期 / 使用回数	分類
○	○	パレード20フロアブル	2,000~4,000倍	収穫前日まで / 3回以内	7
○	○	アフェットフロアブル	2,000倍	収穫前日まで / 2回以内	7
○	○	アミスター20フロアブル	2,000倍	収穫3日前まで / 4回以内	11
○	○	ファンタジスタ顆粒水和剤	3,000倍	収穫7日前まで / 3回以内	11
○	○	ポリベリン水和剤	1,500倍	収穫14日前まで / 3回以内	19とM7
○	○	ダコニール1000	1,000倍	収穫14日前まで / 3回以内	M5

害虫では、葉に寄生したネギハモグリバエの幼虫(体長2~4mm)がネギの組織内に潜入して食害し、その痕が白いスジになります。成虫は体長2~3mmの小さなハエですが、年5~6回発生して産卵、羽化を繰り返します。なお、近年は従来とは異なる食害量の多い別系統が県内に発生して問題化しています。被害は春と秋に多い傾向で、高温少雨で多発生する傾向があるため、各圃場における寄生や被害状況を確認し、発生初期のうちに薬剤防除を徹底してください。

表3 ネギのネギハモグリバエの主な防除薬剤 (令和2年8月31日現在)

薬剤名	希釈倍率	使用時期 / 使用回数	分類
グレーシア乳剤	2,000~3,000倍	収穫7日前まで / 2回以内	30
ベネビアOD(ハモグリバエ類登録)	2,000倍	収穫前日まで / 3回以内	28
ディアナSC	2,500~5,000倍	収穫前日まで / 2回以内	5
アグリメック	500~1,000倍	収穫3日前まで / 3回以内	6
アクタラ顆粒水溶剤	1,000~2,000倍	収穫3日前まで / 3回以内	4A
カスケード乳剤	4,000倍	収穫14日前まで / 3回以内	15

注) 分類欄には、FRACまたはIRACコードを記載しました。同一分類(コード)は作用点と同じなので、連用は避けてください。

農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。

※JA全農いばらきホームページでもご覧になれます。



生産資材部 営農企画課

電話: 029-291-1012 FAX: 029-291-1040